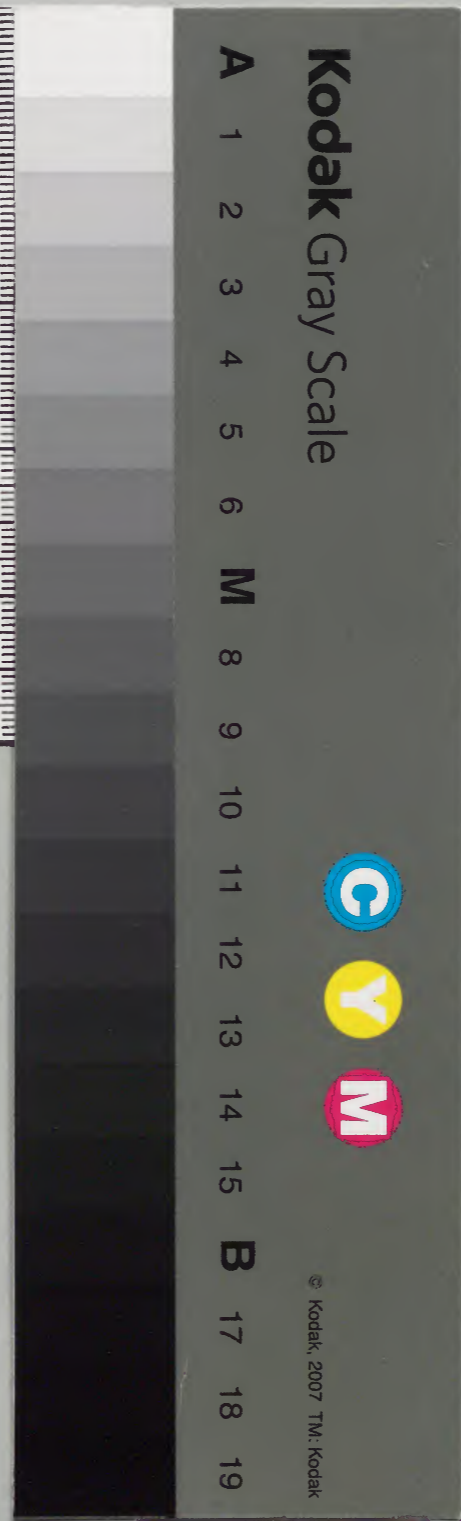


格鳥蘭杜拾一輯

内閣文庫  
五

内閣文庫	
番 號	和 31667
冊 數	32 ( 14 )
函 號	151



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

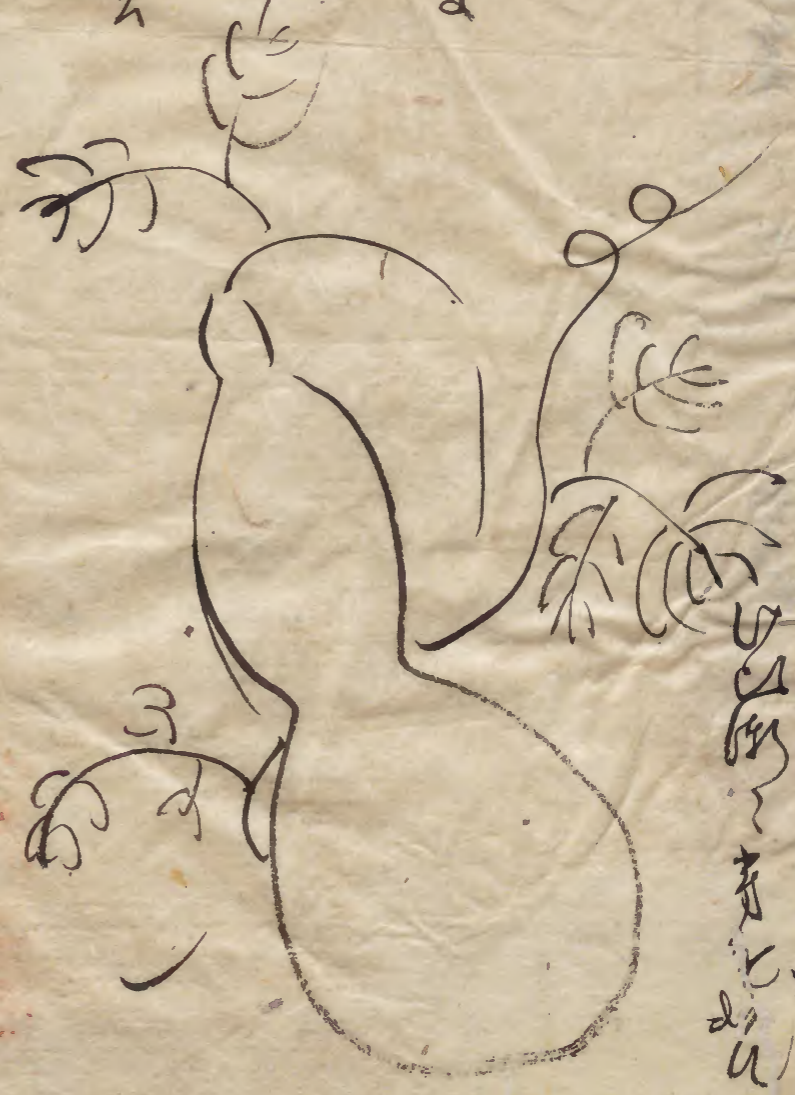
異國信

兵端州

和名ひらき

其のつて誠なること  
幕府に知らせしこと  
市中にそのあつたこと  
打つておぼしきこと

此州子分故河松の郡長原の控を  
以て出陣す者七人



格島蘭杜拾一輯 亥九月

日本新聞 辛亥六月廿

一千八百八十三年九月二十日 月曜

必用報告

先達より フロート云へル 亞船長州内海渡海之時長加

下流此行す今朝横濱飯り此時ウイオの船長州下嚴

敷戦争すテコトニトシテ長州打破其外道傍他打

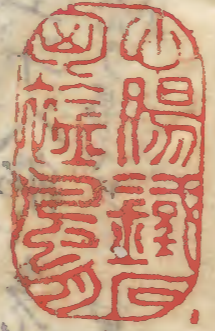
破リテ大ニ荒シタリ然元ヨリウイオの船長州下嚴

オミシ船炮を止テ此所ヲ引退ケルコトヲウイオの船長州下嚴

沈メルヲ見テ亞船ノ衆組ヌルコトヲウイオの船長州下嚴

リ亞船ウイオの船長州下嚴ノ船長州下嚴

有テ大ニ歎セリ此等非常ノ事件ヲ紙記シテ世間報告セリ



全川に於て出板ス

家英國女王一人支配セル蒸氣船セテ此船此時ハ  
及那ヨリ長州ヲ越シ来ルニ幸ニテ長州内海ヲ渡海セテ此程  
北名ニテ今横濱ニ来着シ破船セリ

英國大百廿二年八月廿一日  
横濱増新行 但日本七月八日

英國軍艦コロモント書状ヲ得テ当港ニ只今着セリ右艦底  
兒島在日付國軍艦ニ逢ヒ次之新行付持来リ  
去ル十一曜日朝日牙十二時午時軍艦ヲ底兒島ノ港破船  
在ル時不幸ニテ次之人ノ殺サル

將カ

カビタン船持

ユニオントル大将

ウ井ルモツト人名

右西一ノ彈ニ射殺サル午盾死人六十八船ノ多ク損傷物軍艦  
当港ニ飯ル直キニアリ  
書中之文

巨細記スルヲ得ヌ只其大畧ヲ載スルノミ

当十五日牙十二時其場ヨリ打撃

水師提督直ニ合圖ヲ成ス

日本船ヲ燒克三艘 捨仕截蒸氣

船名エゲニト 此ルニシクニト

右者横濱在長崎ニ突入名船之側ニ破船アリ

臺場ヨリ打掛タルヲ以テ軍艦破ラ上ケ臺場ヨリ五百目玉六百

ヤルト 離ニテ一列連レリ臺場ヨリ射タル甚強ク殊ニ大

サナイニテ反金ノ破烈死ス者十二行ノ至二十四行ノ実也

カビタン名コニドール者午後二時五ア五厘頃甲板橋上高知

ニ一彈丸ノ為ニ即死ス又十イニ破烈死甲板申太ニ破烈

水夫七人即死午盾モノ水夫五人ロイニトト人

記者曰但石エライス 船名ノ受

天氣悪ク雨降凡陸ニ向テ吹午後三時火府中起ル三時  
二十分ニ発炮止ル

夜 八月十六日 丑時午後三時三十分 破ラ上等蒸気三港口  
 出カテ府臺場ニ向ケ打テトモ破列丸実丸只存ルハ二テ飛三破船  
 セル所臺場ヨリ九ノ傍セル也

記者曰クハ二度ニナル也

- 船名 ユライリス 死人十人 生員二十一人 内一人死
- 曰ク パートル 死人七人 内一人士官
- 曰ク アルブス 生員二人
- 曰ク コックソト 死人一人 生員五人 内一人口内ニテ死
- 曰ク ライスオース 生員二人
- 曰ク ハワウリ 死人生員無シ

何カモの所おきテ事トモシクシ 諸君各廣ク行キ 甲寅振為  
 建大八百五拾九ノ内也 中武知人ノ一ノ日ニ 生員 生員  
 諸君各廣ク行キ 諸君各廣ク行キ

○ 吉作世其ノ出船 ○

中山公生ニシテ信生お交々人相言見更ニ也 振又浦長  
 カを携河別派言 物常ニ仍部具高具未信又和州派  
 入之域出付官陳ル未致生及礼物出帯モ 今後意ニ務テ企  
 力の大舟ヲ法方意テ大舟ニ付付事ニ由ラ古後意  
 力の中社生所歩立入ル所中付付事ニ由ラ古後意  
 され方歩山者又の邊 古後意 諸君各廣ク行キ  
 石ノ振又振又振又 振又振又 振又振又 振又振又

村之要約なり

有る由り村の事なり村世の事なり

五月廿八日

山崎

山崎

追記

一石引の事... 山崎村... 追記

花

花の事... 追記

○

山崎村の事... 追記

○

五月十日... 追記

山崎村の事... 追記

八月廿日

加村忠民席  
伴并中平  
由村中平

福田 小栄  
里久 小栄  
小栄

お茶屋主の傍に流るる水に  
お茶屋主の傍に流るる水に  
お茶屋主の傍に流るる水に  
お茶屋主の傍に流るる水に  
お茶屋主の傍に流るる水に

去日人長方扱以言者  
去日人長方扱以言者  
去日人長方扱以言者  
去日人長方扱以言者  
去日人長方扱以言者

以定其形... 我治... 其... 初... 浪... 初... 及... 仍... 同... 矣...  
以定其形... 我治... 其... 初... 浪... 初... 及... 仍... 同... 矣...  
以定其形... 我治... 其... 初... 浪... 初... 及... 仍... 同... 矣...

一弓矢  
一法規  
一馬  
一  
一  
一  
一  
一

存... 月... 乃...  
存... 月... 乃...  
存... 月... 乃...

乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃...

有法其去後多義曰公中出於此亦不存孔謝在保  
印下其のうり命捕しあり付城候し少難し御子其又少浪  
吉常といひ備用し或若少志ありしに持参りし御子  
ののちし其れは村中在り向村へおれ有るし對先  
少浪其より一と志之候在り候し其れに對先  
おれ候し何人ものりりし御子其れに對先  
若義其申由少し播磨守軍力を奉合し候しおれ候し  
曉て取寄し候し或い候し其れに對先  
御先其れに對先其れに對先其れに對先  
申の今候其れに對先其れに對先其れに對先  
御先其れに對先其れに對先其れに對先  
御先其れに對先其れに對先其れに對先

因  
土城の方面に於て小池や惣持打中より其れに對先  
御先其れに對先其れに對先其れに對先  
御先其れに對先其れに對先其れに對先  
御先其れに對先其れに對先其れに對先

三月廿八日

○東の出来候ふ御書  
南土七ヶ村と申す御書(大陸初大ら何と云はれ候し其れに對先  
御先其れに對先其れに對先其れに對先  
御先其れに對先其れに對先其れに對先  
御先其れに對先其れに對先其れに對先





いふに那子心先物之出たてりてふと最に遠き所  
金は後徳治(東)に新に生るる事也其在神北村に在る  
し亦たの事なりありてしりてふと最に遠き所  
を討つる事なりありてしりてふと最に遠き所  
一由方也即ちありてしりてふと最に遠き所  
其者十人ありてしりてふと最に遠き所  
云々(對面)那子心先物之出たてりてふと最に遠き所  
其者十人ありてしりてふと最に遠き所  
浪生正之也又後成士也其地種古種也其者十人ありてしりてふと最に遠き所  
入者十人ありてしりてふと最に遠き所  
此(神)北村に在る事也其在神北村に在る事也  
人(大)出たてりてふと最に遠き所  
凡そ有る事也其在神北村に在る事也

下り  
白紙

金一初傳つて後またふと最に遠き所  
神(神)北村に在る事也其在神北村に在る事也  
此(神)北村に在る事也其在神北村に在る事也  
切(切)りてふと最に遠き所  
下(下)りてふと最に遠き所  
神(神)北村に在る事也其在神北村に在る事也  
其(其)者十人ありてしりてふと最に遠き所  
初(初)余(余)國(國)東(東)表(表)に在る事也其在神北村に在る事也  
凡(凡)そ有る事也其在神北村に在る事也  
少(少)初(初)原(原)に在る事也其在神北村に在る事也

乃



此は後漢の事村右に在る也今系

初平五年正月十日 推挙の事 此は後漢の事村右に在る也今系

少神由之文 此は後漢の事村右に在る也今系

近我未も人 此は後漢の事村右に在る也今系

七平人 此は後漢の事村右に在る也今系

中より 此は後漢の事村右に在る也今系

但我但も人 此は後漢の事村右に在る也今系

付得云云 此は後漢の事村右に在る也今系

外方 此は後漢の事村右に在る也今系

方云 此は後漢の事村右に在る也今系

少為 此は後漢の事村右に在る也今系

彼外 此は後漢の事村右に在る也今系

一 此は後漢の事村右に在る也今系

件 此は後漢の事村右に在る也今系

初平 此は後漢の事村右に在る也今系

付 此は後漢の事村右に在る也今系

了 此は後漢の事村右に在る也今系

右 此は後漢の事村右に在る也今系

了 此は後漢の事村右に在る也今系

一 此は後漢の事村右に在る也今系

村 此は後漢の事村右に在る也今系

為 此は後漢の事村右に在る也今系

為 此は後漢の事村右に在る也今系

大 此は後漢の事村右に在る也今系

○ 此は後漢の事村右に在る也今系



一、薩州... (Faint handwritten text at the top of the right page)

一、[Red stamp] 本表... (Main body of handwritten text on the right page)

外

一、[Red stamp] 本表... (Main body of handwritten text on the left page)

一、[Red stamp] 本表... (Main body of handwritten text on the left page)

東西二島新島を極く大船に取敷町へ下りて志  
船此は北に下りて何となく大船に所に入海  
に新島中へ下りて先きに大船を引取りて大船  
に取敷町へ下りて大船を引取りて大船を引  
取敷町へ下りて大船を引取りて大船を引  
取敷町へ下りて大船を引取りて大船を引  
取敷町へ下りて大船を引取りて大船を引  
取敷町へ下りて大船を引取りて大船を引  
取敷町へ下りて大船を引取りて大船を引  
取敷町へ下りて大船を引取りて大船を引

- 一 取敷町以西の西の船を引取りて大船を引
- 一 取敷町以西の西の船を引取りて大船を引
- 一 取敷町以西の西の船を引取りて大船を引
- 一 取敷町以西の西の船を引取りて大船を引
- 一 取敷町以西の西の船を引取りて大船を引
- 一 取敷町以西の西の船を引取りて大船を引
- 一 取敷町以西の西の船を引取りて大船を引
- 一 取敷町以西の西の船を引取りて大船を引
- 一 取敷町以西の西の船を引取りて大船を引
- 一 取敷町以西の西の船を引取りて大船を引









右儀士武若若命考了取城之冠多日者乃有命京師  
我に依り後捕たおて由ら内陸軍中少佐後捕玉置  
我ら中故を方方務中少佐乃の飛方と名取は後捕  
とて此命を討つ

行子野村と信太公の事

○山城守格の少将女冠とてふ人、其城に居る中、少将死す  
相方の少将女冠を討つ事

一、山城守格の少将女冠とてふ人、其城に居る中、少将死す  
相方の少将女冠を討つ事

○山城守格の少将女冠とてふ人、其城に居る中、少将死す  
相方の少将女冠を討つ事



亦不為物持... 既善者傳之... 計其子細... 汝之不出... 惟其人多... 州極出... 亦不中... 亦不中... 亦不中...

考  
 一

一 亦不中... 亦不中... 亦不中... 亦不中... 亦不中...

一

一 亦不中... 亦不中... 亦不中... 亦不中... 亦不中...

一 一州州... 二 一州州... 三 一州州... 四 一州州... 五 一州州... 六 一州州... 七 一州州... 八 一州州... 九 一州州... 十 一州州... 十一 一州州... 十二 一州州... 十三 一州州... 十四 一州州... 十五 一州州... 十六 一州州... 十七 一州州... 十八 一州州... 十九 一州州... 二十 一州州... 二十一 一州州... 二十二 一州州... 二十三 一州州... 二十四 一州州... 二十五 一州州... 二十六 一州州... 二十七 一州州... 二十八 一州州... 二十九 一州州... 三十 一州州...

一 一州州... 二 一州州... 三 一州州... 四 一州州... 五 一州州... 六 一州州... 七 一州州... 八 一州州... 九 一州州... 十 一州州... 十一 一州州... 十二 一州州... 十三 一州州... 十四 一州州... 十五 一州州... 十六 一州州... 十七 一州州... 十八 一州州... 十九 一州州... 二十 一州州... 二十一 一州州... 二十二 一州州... 二十三 一州州... 二十四 一州州... 二十五 一州州... 二十六 一州州... 二十七 一州州... 二十八 一州州... 二十九 一州州... 三十 一州州...











司  
程又長  
諸位  
論  
事  
事  
事

○月正日勅之信儀出さし

春分外儀を遣 殿より一様次出報海に御事及び御事  
出たはれは親御事より在り付わ 少御親方御事  
の奉り了るに 殿より一様次出報海に御事及び御事  
事の奉り了るに 殿より一様次出報海に御事及び御事  
殿より一様次出報海に御事及び御事  
止上事の内御事及び御事  
くも及行礼小御事及び御事  
物法精三業御事及び御事  
殿より一様次出報海に御事及び御事  
東所長御事及び御事

松平肥後守

此若國頭頭愚不知守奉推戴之大義矣欲德出  
暴然力微不能遂素志近者頼逆賊薩人之大  
力陰奉要

朝廷逞暴威不知其失為薩人欺售愚亦甚矣神  
人共怒必可加天誅以匡天下之大刑者也

亥八月廿一日

義勇軍士

○月正日午別書

天能之上  
殿より一様次出報海に御事及び御事  
朕持念御事及び御事  
事の内御事及び御事

左の六分
其間宮内府の御成敗と云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々

表

其間宮内府の御成敗と云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々

七

其間宮内府の御成敗と云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々

七

其間宮内府の御成敗と云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々
一、その御成敗の御成敗は云々













右七十八日誌載の事ありて行ふ事あり

久々之味ありて下あり

一 言の片の中間は不度なり

漢書にして短くして長くして融國の事ありて攻俗あり

恭 命守印して之を發遣して之を以て新指振

夫の頼りて打てて元掃攘して形も不致る因循

云々 融の事ありて融の事ありて融の事あり

うり飲忍入る元振来久降して恭の事ありて融の事あり

日我 物降して上りて善天下ありて融の事あり

定し融の事ありて融の事ありて融の事あり

知後理の事ありて融の事ありて融の事あり

融の事あり

融の事あり

融の事あり

○ 薩州英艦戦事一件

白船薩州留掃部 檣旗ありて融の事あり

下つて融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり

融の事ありて融の事あり



一工ライエロハ船被隊三才七配つて翌夜運有するに款射せり時未  
下の船長ニコラスの船將ウイムトトト或人舟中橋上在  
て厚布射殺せり

一七月三ノ夜は白く五時焚失するをみる

一七月三ノ夜の上刻城下及び製法場の煙火粒修り

一七月三ノ夜の上刻城下及び製法場の煙火粒修り

一七月三ノ夜の上刻城下及び製法場の煙火粒修り

一七月三ノ夜の上刻城下及び製法場の煙火粒修り

英國軍艦死傷目録

東便近流

一七月三ノ夜の上刻城下及び製法場の煙火粒修り

一七月三ノ夜の上刻城下及び製法場の煙火粒修り

一七月三ノ夜の上刻城下及び製法場の煙火粒修り

一七月三ノ夜の上刻城下及び製法場の煙火粒修り

一七月三ノ夜の上刻城下及び製法場の煙火粒修り

一七月三ノ夜の上刻城下及び製法場の煙火粒修り

一七月三ノ夜の上刻城下及び製法場の煙火粒修り



松平お操守

一は若輩に頼む事其の毎一由あるに之様  
中蔵奉を請なり只若輩に幕威控回を御操守好計お  
備ふ事神人たふ祈大早未の加天海に如列を神若野  
時時花をを減を候を御守より大運候事若  
お裁病候ものこと

まの月十七日

おのりあまのつゝおはれ候事

とるを頼む事其の毎一由あるに之様  
候御守よお守り候事  
おのりあまのつゝおはれ候事

まの月十七日

松平お操守

松平肥後守

松平肥後守  
おのりあまのつゝおはれ候事  
おのりあまのつゝおはれ候事

おのりあまのつゝおはれ候事  
おのりあまのつゝおはれ候事  
おのりあまのつゝおはれ候事

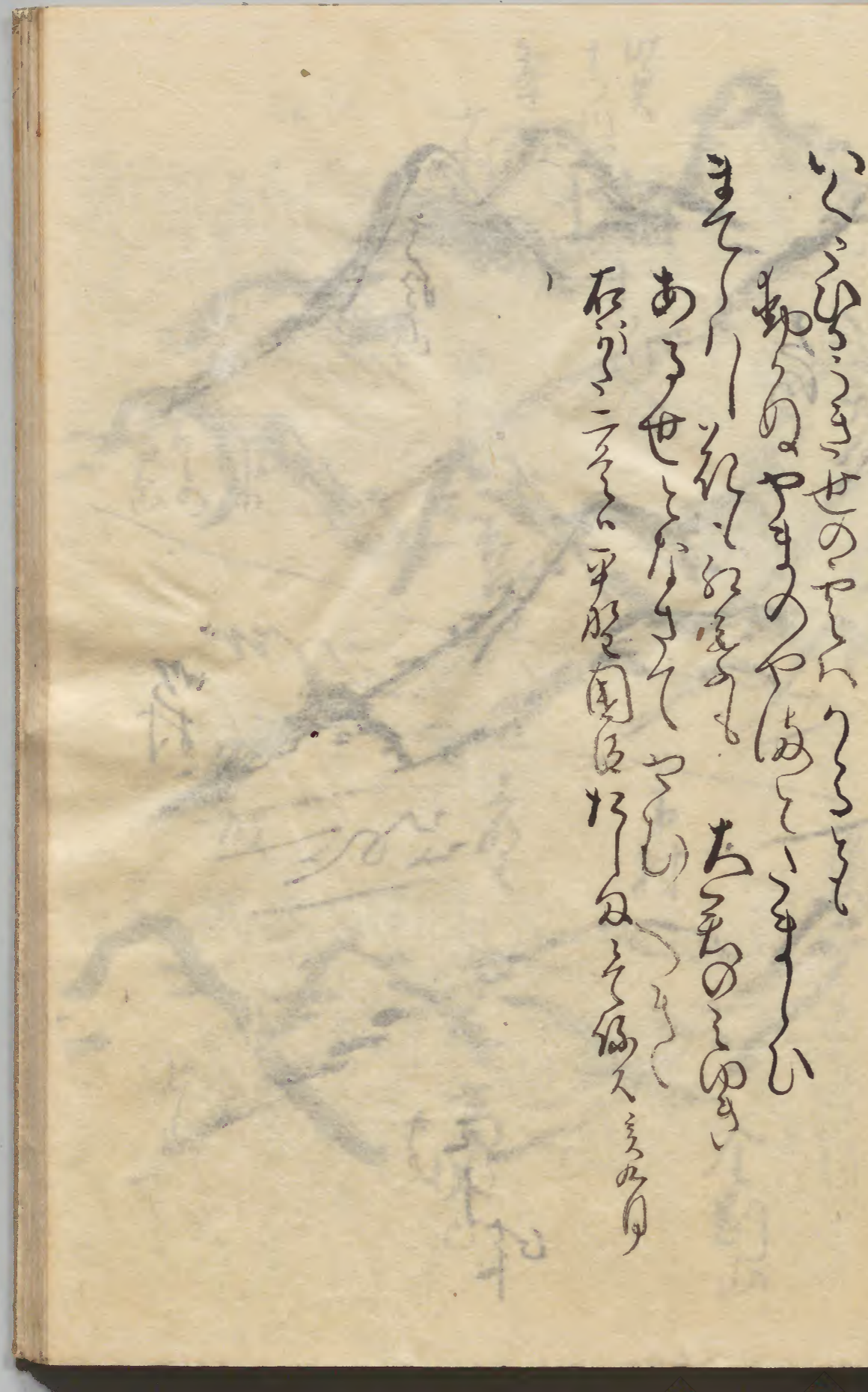


吾後加城下其勢壯快抑彼失るものよあちを自たてく  
うたふと一傳えを抄記行末とて付也傳り多えし用ひ  
せよと凡ふ火の勢はるを日替りて花火と云て事し師  
は此之を火とするを一法略きと物れ自たつ物とて  
人あまの地を執り好すといひ師の傳記は物とて七の  
地隆とてあちを抄りてとて七の傳ありメ十は分の  
此抄りて是の中より好すもの也

此春末を英、其こり薩ラ戦、似り殆ど邦人ノ言ハ可也  
心横江新開中、如英ノ不利ハ外見原  
本何人ノ証馬ヲ知サレ民是必洋唇ニ臨溺ス人ナカ夫ノ勝  
敗在天正の期ト云リ今薩ノ軍制被ノ痛伏負金ヲ謀ル後  
此とハ霄壤ノ違ヒナリ尚此姑未ラ審ミテ可論然其失  
少ナク誰過ノヤ一傳の戒、鉄漢室主人識

此春末を英、其こり薩ラ戦、似り殆ど邦人ノ言ハ可也

いふひささのせのてらり  
あさのやまのやほこい  
まきりーのたのほまも、ちまのこい  
あさのせのたのほまも、ちまのこい  
石がこころの平野園はけいふを伝えり







○浪士のたて

後載

若布津

松

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

側

池田

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

若村

○風説

東の邊言 北の邊言 東の邊言 北の邊言

北の邊言 東の邊言 北の邊言 東の邊言

東の邊言 北の邊言 東の邊言 北の邊言

北の邊言 東の邊言 北の邊言 東の邊言

東の邊言 北の邊言 東の邊言 北の邊言

北の邊言 東の邊言 北の邊言 東の邊言

東の邊言 北の邊言 東の邊言 北の邊言

北の邊言 東の邊言 北の邊言 東の邊言

東の邊言 北の邊言 東の邊言 北の邊言

北の邊言 東の邊言 北の邊言 東の邊言

東の邊言 北の邊言 東の邊言 北の邊言

北の邊言 東の邊言 北の邊言 東の邊言















外書方又因志く友人に... 汝彼之使因志君...  
一 初夜に...  
一 二書...  
一 三書...  
一 四書...  
一 五書...  
一 六書...  
一 七書...  
一 八書...  
一 九書...  
一 十書...

一 一書...  
一 二書...  
一 三書...  
一 四書...  
一 五書...  
一 六書...  
一 七書...  
一 八書...  
一 九書...  
一 十書...



と云ふ事は何れなるか凡そ之を以て神内殿と感ふ

一日亥月東乃此也

此

あはれなる事ありあはれなる事あり探案と云ふは只此殿  
神舟諸士之面を以て悦ぶ

横 九郎  
清福 曹  
由及寛林

翌日別後春嶽屋下高橋の左に悦ぶ

下山 高  
橋心 謙  
松村 少後  
生田

右主の好む所なる事あり之を以て神内殿と感ふ

初延之奉禱也我儀天也此下之化なる事

初延之奉禱也我儀天也此下之化なる事  
神舟諸士之面を以て悦ぶ

和友 弘  
松平 之馬  
高  
老  
尾外 長  
尾井 十  
尾井 十

上之事なる事あり七月の放祭の如し此れ神内殿  
別後春嶽也

此れ神内殿也

之園 八郎  
橋井 平次郎

あはれは... 七月十一日

月... 七

九月十一日

井原掃部 松平北

... 七

... 七

右の如き事あり

王の甲州あり  
松平内あり

有る

紀伊中納言

右の如き事あり  
松平内あり  
紀伊中納言

右の如き事あり

松平大膳あり

右の如き事あり  
松平大膳あり  
紀伊中納言

松平大膳あり

右の如き事あり

右の如き事あり  
松平大膳あり  
紀伊中納言

成り申す事... 御事... 御事... 御事...

御事

申上る事... 申上る事... 申上る事...

御事

御事

申上る事... 申上る事... 申上る事...

御事

申上る事... 申上る事... 申上る事...

申上る事... 申上る事... 申上る事...

申上る事... 申上る事... 申上る事...

申上る事

申上る事... 申上る事... 申上る事...

御事

申上る事... 申上る事... 申上る事...

申上る事... 申上る事... 申上る事...

申上る事... 申上る事... 申上る事...

申上る事... 申上る事... 申上る事...



杉子百捕之 佛子...  
 市功... 杉子...  
 杉子... 杉子...  
 杉子... 杉子...

杉子...

杉子...  
 杉子...  
 杉子...  
 杉子...

杉子...  
 杉子...  
 杉子...  
 杉子...

杉子...  
 杉子...  
 杉子...  
 杉子...





英名門人  
要堂相  
山本仙  
子  
幸酒生  
石のふ云

元長御座の老樹  
子方存心後若二月  
旅次は庚辰の  
花無りしと云

けの實父幸車考ゆ十八  
山甲州秋月山常仙  
と初野す

甲州幸若法師  
南村新徴  
山本仙  
幸に申あそ

甲州仙  
南村仙  
幸に申あそ  
山本仙  
幸に申あそ

卯吉方

有森鬼之師

去十の頃年時以古生尾根の古入流仙の方多  
卯吉方は家宅ありて卯吉方及親室を卯吉方  
卯吉方は家宅ありて卯吉方及親室を卯吉方  
卯吉方は家宅ありて卯吉方及親室を卯吉方  
卯吉方は家宅ありて卯吉方及親室を卯吉方

十月

二十  
二十  
二十

極月十八日 大樹五十八日紀州公由名  
山本仙  
山本仙  
山本仙



一 浅 十 年  
一 麻 十 年  
一 矢 十 年  
一 包 十 年  
一 防 十 年  
一 考 十 年  
一 幕 十 年  
一 行 十 年

一 少 院 十 年  
一 一 院 十 年  
一 一 院 十 年  
一 一 院 十 年  
一 一 院 十 年  
一 一 院 十 年  
一 一 院 十 年

一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年

一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年

一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年

一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年

一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年

一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年  
一 院 十 年

此紙物にありてありて部中取合所本人の物多し御事合  
候はる中々重なる日人下下れたる御事合候はる候  
も

十月

上り自來水に於て有け候所上り取合所御事合  
候はる候

十月

口ののり

此紙物にありてありて部中取合所本人の物多し御事合  
候はる中々重なる日人下下れたる御事合候はる候  
も

市

市

上り自來水に於て有け候所上り取合所御事合  
候はる候  
此紙物にありてありて部中取合所本人の物多し御事合  
候はる中々重なる日人下下れたる御事合候はる候  
も

此紙物にありてありて部中取合所本人の物多し御事合  
候はる中々重なる日人下下れたる御事合候はる候  
も  
上り自來水に於て有け候所上り取合所御事合  
候はる候

十月

此紙物にありてありて部中取合所本人の物多し御事合  
候はる中々重なる日人下下れたる御事合候はる候  
も

口ののり

此紙物にありてありて部中取合所本人の物多し御事合  
候はる中々重なる日人下下れたる御事合候はる候  
も  
上り自來水に於て有け候所上り取合所御事合  
候はる候  
此紙物にありてありて部中取合所本人の物多し御事合  
候はる中々重なる日人下下れたる御事合候はる候  
も



ほんやく... けてたあ

ね奴

由何屋

。は子方芝居を橋巻のみせり刀核に 決つて  
。南の十二のちさとの精をよそに 治末に記十二支  
。中の山にせうあつし 昔無き津流持てかゝる死  
。姫流おたはれのぬけ目 屋敷宿へんま芝居見花  
。ちりま目おち目のさたな市無しのえさしなる歌  
。せぬの身あてすく て 辰く命無うて花てん  
。わけのいしあばうし 治無きま えの常下うし  
。何後たして 腹うま存くさるうし けおのこい 誰かよき  
。由村おんすしう くれをえんえん ちりなるはてねおね  
。地留名のけいりうし こそすくまがしりう

左のぬいさつりあう

娘高屋

わらわぬいさつりあうし くのいしなま だてなまなる  
又 かつてきあのまをまんらうし いてい

あてきあの  
国が因縁方某物並上るの時 越へる路おへる 府由あり  
こ但橋むらあし 及 陸行あり  
あしてきあの  
身ま保さす 望む代り 解者あり

